

会 議 録

会議名称	第4期幸区区民会議 第4回専門部会（みんなで見守りたい）
日 時	平成25年2月4日（月）18時30分～20時40分
会 場	幸区役所 5階第2会議室
出席者	<p>区民会議委員（五十音順） 神谷美和委員、古場敏光委員（部会長）、酒井清委員、鈴木忠夫委員、 鈴木都委員、戸張一吉委員、榎林照江委員、春田公江委員、 村田清子委員（副部会長）、遊佐栄津子委員 事務局 幸区役所まちづくり推進部企画課 佐々木智子課長、加藤剛史係長、菅野和彦職員、 池田智裕職員、地域保健福祉課 家中悦子係長、高齢者支援課 大城敬子係長 株式会社地域計画連合 田口香子研究員</p>
欠席者	原紀代子委員
傍聴者	0人
配付資料	<p>議事次第 資料1 ヒアリング調査の結果報告と今後の調査結果について 資料2-1 地区社会福祉協議会（塚越の陽だまり） 資料2-2 民生委員・児童委員（南河原地区） 参考資料1 株式会社セブンイレブンジャパンと川崎市との連携による高齢者見守りネットワークに関する協定締結について 参考資料2 麻生区高齢者見守りネットワーク事業リーフレット「高齢者が地域で暮らし続けるために ～安心見守りネット～」及び協力事業者一覧 参考資料3 川崎市見守りネットワーク事業の広報について 第4期幸区区民会議第3回専門部会（みんなで見守りたい）会議録</p>
議 題	<p>1 ヒアリング調査の結果報告と今後の調査結果について （1）調査報告について （2）今後の調査・審議について 2 その他</p>
決定事項	<p>区内で見守り活動を行う団体等への調査について、引き続き次のとおり実施する。 ・老人クラブ（友愛チーム）：2月20日（水） ・御幸地区社会福祉協議会が実施する会食会（戸手中部）：3月1日（金） ・御幸地区社会福祉協議会が実施するいきいきサロンやすらぎ：3月4日（月） ・区社会福祉協議会：事務局については企画課で調整。構成員（理事等）については、区社会福祉協議会から選出されている榎林委員を通じて調整 事業者へのヒアリング調査については、上記団体のヒアリング結果を踏まえ、実施するかどうかを含め今後検討していく。 町内会・自治会へのヒアリング調査にあたっては、事前に各町内会・自治会にアンケートを実施し、その結果を踏まえて調査先を検討していく方向で調整を進める。</p>
会議の内容及び主な発言	<p>1 ヒアリング調査の結果報告と今後の調査結果について （1）調査報告について 資料1、資料2-1、資料2-2に基づき、事務局からヒアリング調査結果の概要を説明し、調査を行った委員から補足説明等があった。</p>

【主な意見・質疑応答】

< 地区社会福祉協議会（塚越の陽だまり）への調査について >

今回体操の講師をしていたヘルスパートナーは、「運動を通して健康になる」ということで体操を広めることを目的として活動しており、個々の見守りという点では目的が異なる。

体操など、参加者が自分のできる範囲で参加し楽しんでおり、また、スタッフが声をかけるなど丁寧に参加者への対応をしていた。

男性の参加者が少なかった。声をかけたら、参加するのが楽しみと言っていた。前向きな参加者の様子に、逆に励まされた。

塚越の陽だまりを運営し維持していくことは、非常に大変なことと実感している。運営も地域のボランティアなどが中心であり、地域全体で心を合わせてやっていかないといけない。

交流の場については、お金を使ってやればよいというものでもなく、今後お金が潤沢に使える見込みもない。また、建物があればよいではなく、地域総ぐるみで運営を支えていかなければできない。そういった事が分かったのが、今回の調査の成果だと思う。

< 民生委員・児童委員（南河原地区）への調査について >

民生委員・児童委員（以下「民生委員」という。）の活動について、担当する世帯数が多いことや時間の不規則さなど、非常に大変なことがよく分かった。また、地域福祉のため誠心誠意活動していると感じた。

もし自分が「民生委員にならないか」と声をかけられたらと考えると、受けられないのではと感じた。負担をかけずに活動できる方法や機構などを整えていくことなどを区民会議として考えたい。

昔、長屋住まいで井戸端会議をしていた頃の様なつきあいが必要なのではないかと。民生委員が訪れなくても、近所の3～4人の小さい単位でお互いの悩み事を言えるような関係ができればスムーズなのではないか。

昔できていたことも、現在の社会では難しいところがたくさんある。今の人たちができるような仕組や組み合わせを、この会議を通じて「見守り」という切り口で提案していきたい。

民生委員の負担は明らかになったが、その大変さをどのように解消していくか、という提案をしていかななくてはならない。民生委員の活動で手伝えることや周りで手助けできる人などより具体的なことを考えていきたい。一例として、廃棄物減量指導員に補助員制度を設け、運営している町内会の事例がある。参考にできるのではないかと。

資源集団回収を地域で行っているが、高齢者などは運ぶのが大変である。そういったところをきっかけに、近所で気になる人に声をかけて、見守りをしてはどうかと思った。

個人の発意ではなく、みんなでできるようにするために、見守りについて、誰が何をやっていくのかを整理して提示するところまで区民会議で考えていく必要がある。

(2) 今後の調査・審議について

資料1に基づき、事務局から説明し、日程調整を行った。(日程等の詳細は決定事項参照)

2 その他

次回の第5回専門部会（みんなで見守りたい）は、平成25年2月26日（火）18時30分から開催

以 上